

サマルカンド市への訪問について

奈良市長は、ウズベキスタン共和国サマルカンド市で開催された「姉妹都市国際フォーラム」(7月24・25日)に正式招待を受け出席し、各国代表者・有識者と次世代の都市間交流に向けた多角的な意見交換を行いました。

本フォーラムは、文化・経済・科学・教育など幅広い分野での協力強化を目的とする国際的な自治体外交イベントであり、世界20か国以上の自治体首長が参加しました。

併せて、来年度開催予定の「奈良・サマルカンド特別交流展」に向け、ウズベキスタン芸術文化開発財団との面談を実施し、広報・文化イベント・輸送など具体的な準備が本格化しました。

【姉妹都市国際フォーラム】

■奈良市長スピーチ

サマルカンドとは4年前に姉妹都市となったが、奈良とサマルカンドの繋がりはシルクロードを通じて千年以上の歴史的繋がりを有することを述べ、来年度の特別交流展を通じて市民にその歴史を還元する意義を強調しました。



■フォーラムでの主な提起事項

➤ 市民レベルの交流と次世代交流：

シアトル代表団からは、政治対立を避け、市民同士の直接交流を軸にした半世紀の姉妹都市関係の維持例が共有されました。

ブルガリア代表からは、学校・大学・若手起業家を対象とした交流プログラムのロードマップ策定が提案され、若者への投資が都市外交の鍵であるとの認識が示されました。

➤ 文化交流の具体化：

ロシア・リャザン市からは、民族文化を取り入れたファッションプロジェクトの事例が紹介され、文化の融合が相互理解を深める手法として提示されました。

ブハラ州副知事からは、記念碑の相互建立などが観光客増加に繋がっているとの報告がありました。

➤ 科学外交・デジタル外交への進化：

ウズベキスタン商工会議所会頭顧問・大使や最新史問題調整・方法論センター主任研究員アベルクロフ・ディルシヨド氏からは、AI・量子技術・気候変動などの分野で、姉妹都市ネットワークを活用した国際共同研究所の構築が提案され、都市間交流の新たなフェーズとして「学術・科学外交」、「デジタル外交」の重要性が強調されました。

■フォーラムを受けての展望

本市としても、奈良市の歴史的背景や文化資源を発信することで国際的なプレゼンスを高める機会となり、各都市が提示した多角的な交流の在り方の共有を受け今後の姉妹都市連携の深化に向けた具体的な取組の検討に資する有意義な場となりました。

【ウズベキスタン共和国大統領府文化芸術発展基金との面談】

来年度の「奈良・サマルカンド特別交流展」に向け、基金第一副長官らと以下の点について協議し、複数の事項で具体的な意見交換ができました。



■広報・PR 戦略

7月28日に東京で実施する公式プレス発表の内容を改めて確認しました。

交流展の広報手法について意見交換を行い、日本側・現地側が連携した取材機会の設定に向けて協力していくことを確認しました。

■展覧会期間中の文化イベント

2か月間の会期中、博物館周辺でウズベキスタンの音楽・食文化などを体験できるサイドイベントの実施について協議しました。

■外交との連動

展覧会に合わせたウズベキスタン政府関係者の訪日も想定されることから、外交のスケジュールと展覧会を連動させる方向で合意しました。

■新・国立博物館との協力

タシュケント中心部で建設中の中央アジア最大規模の新・国立博物館について、施設の公開に合わせた日本の文化紹介の可能性が示され、長期的な協力をしていく方向で合意しました。